

共創型デイサービスの取り組み

① ご利用者自身がデイサービスの活動を企画



「アズハイムテラス浦和円正寺デイサービスセンター」では、ご利用者同士で会議を開き、新しいイベントや季節行事などを企画しています。

きっかけは、事業所で行うイベントが固定化しやすく、ご利用者がより楽しみにできる活動をつくりたいという考えでした。当初はスタッフが進行を支えていましたが、回を重ねるにつれて、ご利用者からさまざまな意見が出るようになりました。今では会議を通して、それまで交流の少なかったご利用者同士に会話が生まれるなど、活動の企画だけでなく、人とのつながりにも変化が見られています。

こうした活動の一例として、デイサービスで作った料理を自宅でもう一度作り、ご家族に振る舞ったご利用者もいました。これまで自宅ではほとんど調理をしていなかった方でしたが、自ら提案した企画であったこともあり、事業所での体験がご自宅での行動につながりました。その様子をご家族やスタッフが知ったことで、次の企画に向けた新たな意見も生まれ、活動の輪が広がっています。

共創型デイサービスの取り組み

② 元書道講師のご利用者が、再び「先生」に



「アズハイム青葉台デイサービスセンター」では、かつて書道を教えていたご利用者に、事業所内で開催する書道教室の先生を務めていただいています。

ご本人はもともと世話好きで、誰かの役に立つことを好まれる方でしたが、認知症の症状によって他者とのコミュニケーションが難しくなることや、日常生活での転倒が増えたことから、デイサービスの利用を開始しました。

そこで、これまでの経験を生かせる役割として、スタッフがサポートしながら、月1回の書道教室の講師を始めました。教室は、見学に訪れる新しいご利用者もいるほど好評で、現在では月1回の開催に加え、個別に書道を教える機会も生まれています。

ご本人が周囲に声をかけたことで、それまで活動への参加が少なかったご利用者が一緒に筆を取るようになるなど、新たな交流にもつながりました。また、書道教室のない日にも、事業所内のちょっとした手伝いを自ら申し出るなど、意欲的に過ごされています。

共創型サービスの取り組み

③ 農業と自営業の経験を生かした青果販売



「アズハイム水戸デイサービスセンター」では、農業や自営業の経験を持つご利用者を中心に、青果の仕入れから販売までを行う企画を継続して実施しています。

この取り組みは、高齢になり、以前のように歩いて買い物に出かけることが難しくなったご利用者が多くいたことや、新しいことに挑戦する機会が少なくなっていたことをきっかけに始まりました。当初は2人のご利用者を中心に進めていましたが、次第にほかのご利用者も加わり、商品の販売、宣伝、店頭POPの制作など、それぞれが役割を分担するようになりました。販売会には地域の方にもお越しいただき、デイサービスの中だけにとどまらない交流も生まれています。

中心となったご利用者が周囲に積極的に声をかけることで、センター全体にも明るい雰囲気広がりました。今では、ご利用者同士で次に行いたい企画について話し合うなど、新たな活動にも意欲を見せています。